

研究課題名 子宮内膜細胞診の有用性 直接塗抹法と LBC 法の成績の比較

近年、子宮体癌の症例数が子宮頸がんを上回り増加している現状を踏まえると、子宮内膜細胞診の判定精度の向上、標準化が必要と思われませんが、子宮内膜細胞診の有用性、必要性については意見が分かれています。

しかし、LBC（液状化）法が現れ、標本品質が向上したこれらの標本を用いた子宮内膜細胞診の有用性、必要性についての再認識が必要となりました。

本研究では、「子宮内膜液状化検体を用いた子宮体癌スクリーニングの性能評価のための多施設共同試験」（公益社団法人日本産婦人科医会が主導して行う全国規模の多施設共同研究にちば県民保健予防財団も参加）の研究対象者の一部の検体（平成 26 年 5 月から平成 29 年 3 月の間にちば県民保健予防財団で収集した 228 件（208 名））を用い、直接塗抹法と LBC 法の成績を比較し、子宮内膜細胞診の有用性を検討します。

LBC 法の有用性は既に子宮頸がん細胞診で検証されています。標本の品質の安定と向上は内膜細胞診の精度の向上にも有効と考えられます。

本研究における個人情報等の扱いは以下のとおりです。

1. （データの収集について）
本研究のための新たな資料及びデータの収集はありません。
2. （個人情報の扱いについて）
研究実施に係る試料等を取扱う際は、被験者の個人情報とは無関係の番号を付して管理し、被験者の秘密保護に十分配慮します。
3. （結果の公表について）
研究担当者は、本研究の成果を関連学会等において発表することにより公表します。研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。
4. （利益相反について）
本研究の主任調査研究責任者および分担調査研究者は、本研究に関して利益相反はありません。

本研究にご自身のデータが利用されることについてご同意いただけない場合やお問い合わせ等につきましては、下記までご連絡ください。

研究責任者

検査部 病理・細胞診断科 黒川 祐子